

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792210015		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームてんえい 1階		
所在地	福島県岩瀬郡天栄村大字飯豊字大行45番地1		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和元年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼや畑など自然に囲まれた中に、ひときわ目立つオレンジ色の建物がグループホームてんえいです。入居者様の思い、ご家族の思いに受容・共感し、安心感の得られる事業所作りを行っております。開設して4年目を迎え、少しずつ近隣の方々とも交流が図られるようになってきました。今後も地域交流に深め、更なるサービスの質の向上に努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 開設4年を経た村唯一のグループホームで、地域や行政、利用者家族等との連携・協力しあう関係が、運営推進会議や行事を通して深まりつつある。村で暮らせてよかったとお互いが笑顔でがんばる事業所を理念とし、村文化祭への作品出品や小学校の運動会への参加、ボランティアの受け入れ等、利用者が地域の一員として関わりを持ちながら暮らせるよう取り組んでいる。
 2. 職員が食事作りに費やす時間を軽減し、利用者との関わりを少しでも多く持つためチルド食を導入したが、月6回利用者の希望献立を実施している。利用者の参加の下、頂いた食材や地域の食材を使ったり、ホットプレートによる卓上調理や季節に応じた料理を提供するよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送りの際に、法人理念と事業所の理念を唱和している。理念の理解を深め、達成できるよう、日々念頭に置いて業務に当たっている。	事業所理念を掲示し、職員ミーティング時に唱和し、共有しながら理念に沿った支援を実践している。また、会議で理念の振り返りを行い、年度末に見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェへの参加や、村の福祉課、社会福祉協議会と連携を図り、ボランティアの協力を得られる体制が整っている。	地区町内会に加入している。散歩・外出の際に地域の方と挨拶を交わしたり、村文化祭への作品展示や小学校運動会見学、ボランティアの受け入れ、買い物等を通して、地域の方と交流を持ちながら生活が出来るよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ認知症の方が入所している施設という村の理解が得られてきている。来所された方には、認知症の方への対応等をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地域の代表、ご家族の代表の方々に出席頂き、2カ月に1回開催している。事業所の運営状況を報告し、事業所の課題に対して助言を頂いている。	運営推進会議は定期的に開催されている。会議では、事業所の現状や利用者状況、事故・行事報告等を行い、委員から意見やアドバイスを頂き、それを運営に活かしている。委員からの意見で、村の防災無線機の設置が実現出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の担当者が運営推進会議に出席し、事業所の現状を把握している。相談や疑問があれば、行政の窓口へ伺い、直接話しを行っている。	村担当職員が運営推進会議に出席しており、事業所の実情を理解して頂いている。運営推進会議で出された防災無線機設置の相談をしたところ、設置が出来た。また、利用者の抱える課題について相談し、行政・関係機関・家族等が話し合う等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を設置し、3カ月に1回会議を行い、日々の介護の振り返り、身体拘束につながらないよう、チェックシートを記入している。	身体拘束・虐待に関する研修会の開催や身体拘束チェックシートで、身体拘束の具体的な行為について確認しながら、身体拘束をしないケアを徹底している。全職員がスピーチロックの弊害と廃止について話し合い、ケアに反映するよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に出席し、事業所内にて伝達講習を行っている。言葉遣いや態度が粗雑にならないよう、職員間で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	村の社会福祉協議会主催の研修に出席し、制度の理解を深めることができた。各職員にも伝達し、必要な方がいれば、活用できる体制ができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を丁寧に説明し、不明な点がないよう聞き取りながら、契約をすすめている。入居に関するリスクに関して説明を行い、理解を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には、日々の会話の中から、意見や要望がないか確認している。ご家族が面会に来られた際には、意見や要望を聞くようにしている。	利用者からは、生活の中での会話等から意向や希望を把握するよう努めている。また、家族からは面会時や行事、運営推進会議等で意見や要望を聞き、それを運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、定期的に管理者面談を行い、事業所の現状を把握している。管理者も定期的に職員の面談を行い、個人の意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、各種会議や日常業務の中で職員の要望や提言を聞くよう努めている。また、法人の担当者や管理者による職員面接を実施し意見や提案を聞き、出された意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人には資格取得に関する支援制度があり、個人の能力に合わせた処遇となっている。個人の家庭の事情に合わせた勤務形態をとる等、働きやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の様々な研修の他、職員の力量に合わせて外部研修への参加を促している。法人では毎年事例発表会も行い、全事業所の取り組みを発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他事業所の管理者や職員と交流を図っている。情報交換会では、地域の情報を得て、活用している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での生活の不安を受け止め、ご本人の思いを傾聴し、安心して生活して頂けるよう、コミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所に対して不安や心配を抱かないよう、サービスに関する説明を丁寧に行い、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見を聞き、現状に合わせたサービスの必要性を見極め、本人が望む暮らしにつなげられるよう、一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を目標とし、ご本人ができることを見守り、生きがいを感じられるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態をご家族に報告し、何かあれば相談している。行事や外出の際には、ご家族の協力を得て、一緒に楽しんで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域やご家族との絆を大切に、村の行事と一緒に参加することで、地域の一員としての自覚を失わないよう配慮している。	家族や友人・知人の来訪があり、お茶を出して気兼ねしないで話ができるよう配慮している。村の文化祭に作品を出品し見学等を通して、馴染みの方との関係が継続出来るよう取り組んでいる。また、家族の協力で墓参り等に出かけている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないよう、席を工夫し、相性が良い関係を保っている。レクリエーションなどでは、交流が図れるよう、職員が仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も何か相談があれば対応し、引き継いだサービス関係者とも連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向や思い、困っていることなどは、日々の生活の中にて聞き取っている。意思疎通が困難な方には、ご家族に聞き、判断している。	日常生活の中での会話や、朝・夕刻時に利用者の思いや話を聞く機会をつくり、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報や日頃の生活等から、会議で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時にこれまでの暮らし方を情報収集し、入居後も情報を得た場合は、記録し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況を記録し、申し送りやケース会議で情報の共有を図り、介護計画作成に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の思い、ご家族の意向を聞き取り、現状に合わせた介護計画を作成している。モニタリングは基本的に3カ月に1回行い、状態変化時には、随時介護計画を変更している。	入居時は1ヶ月の暫定ケアプランを作成し、その後は利用者・家族の意見や担当者がまとめたサービス提供状況記録を基に現状に即した介護計画を作成している。また、3か月に1回モニタリングを行い、全職員で話し合っている。状態変化時は、その都度介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌に一人ひとりの日々の変化を記入し、情報を共有している。変化や気づきがあれば、ケース会議にて検討し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態変化、ご家族の要望等があれば、事業所内にて検討し、必要に応じて村の担当者や地域包括支援センターなどに協力を仰いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、ボランティアを受け入れている。地域資源を活用しながら、安心、安全に豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望にてかかりつけ医に通院されている方、訪問診療を受けられている方がいる。通院の際には、ご家族に協力を頂いている。	入居契約時に、これまでのかかりつけ医とするか、事業所の協力医による訪問診療に選択してもらっている。通院同行は家族が行い、受診結果や利用者の健康状態は互いに報告し共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が週に1回訪問し、健康管理を行っている。何かあれば助言を受け、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の関係者と連携をとり、ご本人とご家族が安心して入退院ができるよう調整している。また、早期退院につながるよう、定期的に病院に訪問し、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向を書面にて確認している。看取りの時期には、再度意向を確認し、主治医や医療関係者と連携を図っている。	入居契約時に、重度化した場合における指針内容を本人や家族に説明し同意を得ており、終末期の看取りについても事前確認している。重度化時は、再度家族の意向を確認し、主治医や看護師等と連携を図り、希望に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの活用や定期的な研修の実施により、急変時、事故発生時は早期に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施している。年2回地元消防団の協力を得て総合訓練を実施し、協力体制ができています。非常用備蓄品3日分や防寒用品、救急用品、薬品等も準備している。	年2回火災を想定した避難訓練を、消防署立ち会いで行っている。また、法人本部職員による、防災機器等の取扱いや、災害に対する対応等について、実技や講義を毎月行っている。コンロや防寒用品、缶詰やレトルト食品等、非常用品も備蓄されている。	火災だけでなく、地震や風水害等を想定した訓練も行って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの自尊心や羞恥心に配慮した声掛けを行っている。認知症の方への対応を学び、その方の現状に即した対応を行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。排泄時等での声掛けもさり気なく小さな声で行い、羞恥心に配慮している。個人情報の書類等は鍵付き書庫で管理され、個人情報保護や倫理に関する研修会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員一人ひとりが入居者様の思いや希望を聞き取ることを心掛け、自己決定できるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活のリズムは入居者様に合わせており、ゆっくりのんびりと過ごして頂けるように、希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの準備を職員と一緒にしたり、身だしなみを整えたり、その方の能力に応じて、声掛けや見守りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	献立と食材配達は業者を利用し、塩分控えめでカロリー計算された食事を提供している。月6回希望献立を取り入れ、季節に応じた食事を提供している。	配食サービスによるチルド食品を基本としているが、月6回利用者の希望献立を実施し、季節に応じた料理等を実施している。ホットプレート料理や行事食も手作りで提供し、利用者も準備や後片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を観察、記録している。また、スタッフ会議等で食事形態や提供方法を定期的に見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、口腔状態を確認し、状況に応じて歯科の訪問診療を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時や訴え時のトイレ誘導にて、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を可能にしている。個室にトイレが備わっている為、ゆっくりとトイレに座ることができている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け等羞恥心に配慮しながら、出来るだけトイレでの排泄支援に努めている。トイレが居室内に設置され他の利用者を気にすることなく、ゆっくり済ませることが出来る。また、オムツやパットの使用量等が適切であるか検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動、レクリエーションを行い、自然排便を促している。下剤を使用する際は、主治医の指示の下、使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を確認し、入居者様の状態に応じた入浴方法を行っている。好みの湯温や入浴時間等、その方に合わせて対応している。	週2回以上入浴支援が出来るよう、利用者の体調や希望等に併せて支援している。同性介助に対応したり、入浴を拒む方には歌を歌いながら、さりげなく浴室に誘導する等して働きかけている。お湯はその都度入れ替え、好みの湯温で職員と話をしながら、ゆっくり入浴を楽しんでもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの習慣や体調に配慮し、安心して快適に入眠して頂けるよう、明かりや温度、湿度に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は個別に記録しており、既往歴や服薬内容を把握している。誤薬防止の為、服薬時は何重にも確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や家事を行うことで、活気のある生活を送って頂いている。気分転換に外気浴や散歩を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と連携を図り、通院や外出に行かれています。法人内のカフェに外出されたり、事業所内の行事でバス旅行に出かけています。	天気が良い時は事業所周辺の散歩に出かけています。文化祭や運動会、桜やツツジの見学、定期的に法人が主催しているエコカフェにも出かけています。また、家族の協力を得て、外食や一時帰宅等、外出の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に事業所管理となっているが、外出時や移動販売での買い物の際には、職員の見守りにて会計されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月ご家族へ送付している事業所からの書類に、ご本人様の手紙を同封したり、代筆が必要な方には対応している。ご家族の協力を得て電話もできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の作品を展示したり、季節の花等で四季を感じて頂いている。不快な音や光に注意し、定期的な換気を行い、温度や湿度にも配慮している。	共用空間は、温度や湿度が適切に管理され清潔感があり、テーブル等の配置も、利用者が安全に生活出来るよう配慮されている。季節の生花やクリスマスツリー等を飾り、季節感を出している。また、壁面には多くの絵画や行事写真等が飾られ、家族等との会話が弾むよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫し、相性の良い方と過ごされている。時折ソファを使用し、一人でテレビを見たり、その時の気分に応じて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者様の今までの生活環境を崩さぬよう、ご家族と相談しながら、居室の空間を作っている。また、ご家族の協力を得て、馴染みの物を持ち込んで頂いている。	テレビやコタツ、机や椅子、文庫本やパズル等、馴染みの物を持ち込んでもらい、思い思いに生活が出来よう支援している。居室内の配置は、家族と相談しながら行い、日当たりや寒暖差を考慮し季節毎に変えている。清掃及び換気は定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて行動できるよう、手すりを設置したり、家具の配置を工夫したり、安全で快適な生活を送られるよう工夫している。		